

平成28年度

推薦入試学生募集要項

【推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない）】

〈経済学部・医学部（看護学科）・工学部・福祉健康科学部〉

出願期間 平成27年11月2日（月）～11月6日（金）

試験日 平成27年11月18日（水）

合格者発表 平成27年12月1日（火）

【推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す）】

〈教育学部〉

出願期間 平成27年11月2日（月）～11月6日（金）

試験日 平成27年11月18日（水）

合格者発表 平成28年2月10日（水）



変化する、そして進化する。

大分大学

OITA UNIVERSITY

目 次

	ページ
福祉健康科学部の設置及び教育福祉科学部の改組について	1
アドミッション・ポリシー	6
1. 推薦入試募集人員	19
2. 推薦入試 I	20
① 推薦要件	20
② 入学者選抜方法等	24
③ 配点	25
④ 面接, 採点・評価等	25
3. 推薦入試 II	27
① 推薦要件	27
② 入学者選抜方法等	27
③ 配点	28
④ 面接, 採点・評価等	29
⑤ 同点者の取り扱い	29
4. 出願期間	30
5. 出願に必要な書類等	30
6. 個人情報の取扱い	31
7. 障がいのある者等の事前相談	31
8. 東日本大震災により被災した者, または東日本大震災や福島原子力 発電所事故により転学等をした者の事前相談	32
9. 受験票	32
10. 受験に際しての注意事項	32
11. 検査場	33
○ 大分大学位置図	33
○ 旦野原キャンパス	34
○ 挾間キャンパス	34
12. 不正行為の取扱い	35
13. 合格者発表	35
14. 入学手続等	35
15. 一般入試への出願	36
16. 入学試験個人成績の開示	36
17. 高大接続学習	37
18. その他	37
19. 受験の際の宿泊	37
20. 大分大学学生寮のご案内(予告)	38

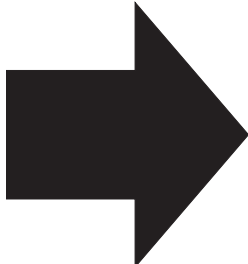
【推薦入試出願書類等】

福祉健康科学部の設置及び教育福祉科学部の改組について

大分大学では平成28年4月に、下記のとおり福祉健康科学部の設置及び教育福祉科学部の改組を行います。

これらの設置・改組に伴い、関連する既存課程・コースにおいて、下図のとおり学生募集を停止します。

1. 設置・改組について

設置・改組前（平成27年度）		設置・改組後（平成28年度）
		福祉健康科学部 <100名>
		福祉健康科学科 100名
		理学療法コース 30名
		社会福祉実践コース 35名
		心理学コース 35名
		教育学部 <135名>
		学校教育教員養成課程 135名
		小学校教育コース 125名
		特別支援教育コース 10名
		募集停止
学校教育課程 100名		
発達教育コース 25名		
教科教育コース 65名		
特別支援教育コース 10名		
情報社会文化課程 50名		
社会文化コース 15名		
情報教育コース 20名		
総合表現コース 15名		
人間福祉科学課程 95名		
社会福祉コース 35名		
心理健康福祉コース 30名		
生活環境福祉コース 30名		

2. 「福祉健康科学部」の設置について

(1) 設置の趣旨

わが国が世界でも例を見ない速度で少子高齢化が進む中、本学は、これまでに蓄積してきた教育研究成果を結集してより成熟した福祉社会の実現に貢献するという理念を掲げ、大学の新しい方向性についての検討を重ねてきました。その結果、本学が有している特色・強みである「医療」「福祉」「心理」の融合という先進的なコンセプトをもった新しい学部〈福祉健康科学部〉創設の構想に至りました。

福祉健康科学部は、医療、福祉、心理を有機的に融合させた「福祉健康科学」（注1）という独自の学問体系の下で、それを構成するリハビリテーション、社会福祉学（ソーシャルワーク）および心理学の学問領域に立ち、それぞれの高度な専門的知識と技能を体系的に修得することを通じて、理学療法士、福祉専門職、および心理専門職の養成を目指します。

さらに、本学部では、個別の専門職の養成にとどまらず、「生活を包括的に支援する視点」を持ち、要支援者の多様な課題に対応できる各分野の専門性を担保するとともに、地域包括ケアシステム（注2）を実践する「領域横断型」の専門職のリーダーとなり得る「生活支援の専門職者」の養成を行います。

以上、福祉健康科学部の創設は、「より成熟した福祉社会の実現」という上記の理念の具現化に大いに資すると確信するものです。

（注1）「福祉健康科学」とは、個人の心身に働きかける「心理学」「リハビリテーション」および個人をとりまく環境との関係性に注目する「社会福祉学」「ソーシャルワーク」の学問体系に立脚し、心身の状態と生活環境の相互作用という観点から個人の健康に関する事実や法則性を明らかにするとともに、専門職者による包括的な生活支援をより効果的にする知見と技能を提供する総合的な実践科学です。

（注2）「地域包括ケアシステム」とは、高齢者をはじめ、障がい者や児童などの要支援者に対して、住宅等住み慣れた地域の中で生活を支え、充実した社会保障を提供するための中核的施策です。

(2) 学部の概要

同学部は、1学科（福祉健康科学科）3コース（理学療法コース、社会福祉実践コース、心理学コース）で構成します。

〈基本理念〉

福祉と医療、心理を融合した新しい教育研究を通じ、リハビリテーション学、社会福祉学、心理学の学問領域に立ち、それぞれの学問領域における高度な専門的知識と技能のみならず他領域における知識等を体系的に習得することを通じて、「地域包括ケア」のリーダーとして活躍できる人材養成を行うことによって、より成熟した福祉社会の実現に寄与することです。

〈教育の目標〉

資格取得をめざすのみではなく、「高度な専門性」と「社会人としての教養と態度」を備えた医療・福祉・心理の各分野における「実践専門職」として社会に貢献するとともに、包括的な支援を高度にマネジメントできるリーダーとして「地域包括ケア」の実現に寄与する人材を養成します。

〈教育課程の特色〉

●高い専門性を担保した専門職養成のためのカリキュラム設定

理学療法士、福祉専門職（社会福祉士など）、心理専門職（認定心理士など）の資格取得に必要な科目を履修することによって、高い専門性を担保します。

・コース専門科目（理学療法概論、地域福祉論Ⅱ、臨床心理学実践論など）

● マネジメント能力とリーダーシップ能力を涵養するためのカリキュラム編成

資格取得のためだけのカリキュラムではなく、「地域包括ケアシステム」を具象化するために求められる、医療・福祉・心理の領域を横断した、「高いマネジメント能力とチーム・アプローチにおけるリーダーシップを取れる能力」を涵養するカリキュラムを編成しています。

- ・ 共通基礎科目（福祉健康科学概論など）
- ・ 共通展開科目（人間発達学，地域福祉論Ⅰ，社会心理学など）

● 実践を重視した参加型学習の充実

アーリー・エクスポージャー（早期体験実習）の実施により，各専門職となる覚悟と関心を早期に高め，学習への動機付けや能動的・問題解決的な自己学習態度を身に付けます。

また，チュートリアル科目の導入により，座学で学習した知識が現場でどのように役立つかを学ぶとともに，高齢者や障がい者をはじめとする要支援者の生活を包括的に支援するための課題解決に必要な専門職間の連携やマネジメント能力を涵養します。

- ・ 共通基礎科目（アーリー・エクスポージャー）

入学間もない時期に，障がい者施設等に出向き，理学療法士，福祉専門職，心理専門職が現場でどのように働いているかということを見学する。

- ・ チュートリアル科目（チュートリアルⅠ～Ⅳ）

各コースの学生や医学生，看護学生で構成する少人数グループにより，チューター（教員）のもとで，個別のケース検討（事例検討型学習）を行う。

3. 「教育福祉科学部」の改組について

(1) 改組の目的

教育福祉科学部では、平成25年12月に公表したミッションの再定義において、大分県教育委員会等との連携により、地域密接型の教員養成学部として、地域の教育に貢献する質の高い教員を養成する役割を担うこととなりました。

そのため、本学部では、実践型教員養成への質的転換を図り、特に学力・体力向上、不登校・いじめ対応、目標達成に向けた組織的な学校組織の構築などの地域の教育課題に的確に対応できる能力を備えた教員を養成することを目的に、平成28年4月に向けて次のような改組を行います。

(2) 改組の概要

実践型教員養成機能を強化するため、名称を教育学部と改め、学校教育教員養成課程を設置します。同課程は、小学校教育コース（卒業要件：小学校教諭1種免許状）と特別支援教育コース（卒業要件：特別支援学校教諭1種免許状・小学校教諭2種免許状）の2コースで構成します。

<教育の理念>

小学校教育における各教科の指導内容と指導方法についての確かな専門的知識の上に、新しい時代を担うための子どもたちの学ぶ力を育む実践的指導力を持ち、教育現場で生起する諸課題に適切に対応できる小学校教員を重点的に養成します。

<教育の目標>

次のような学校教員を養成します。

1. 社会からの尊敬・信頼を受ける教員
2. 確かな実践的指導力を有する教員
3. 新たな学びを展開できる実践的指導力を有する教員
4. 学校の教育力を支えることができる教員

<教育課程の特色>

【小学校教育コース】

●小学校教員養成に重点化したカリキュラム編成

小学校教員としての実践的指導力を育成するために、初等教育教科に関する科目は全教科を必修化し、さらに英語の教科化へ対応します。また、小学校の教科内容理解力、教科指導力の向上のために、「小学校教材研究」や「小学校授業論」などの科目を新設します。

さらに、小学校に隣接する校種の教育実践内容の理解を通して小学校教員としての指導力を高めるために、他の校種の教員免許も取得できます。

詳細は、次ページの「取得できる教員免許」をご覧ください。

●地域や現代の教育課題に対応する新科目の設定

学力・体力向上、不登校・いじめ対応、目標達成に向けた組織的な学校組織の構築などの地域の教育課題に的確に対応できる能力を備えた教員を養成するために、以下のような科目を設定します。

- ・「地域の教育課題」
<学力向上、体力向上、不登校・いじめ対応、芯の通った学校組織の構築等>
- ・「教育コミュニケーション力の開発」
<児童生徒・保護者とのコミュニケーション等のロールプレイ>
- ・「教育実践の課題Ⅰ」
<言語活動の充実、総合的な学習の時間、学校図書館活用に関する内容等>
- ・「教育実践の課題Ⅱ」
<特別な教育支援を必要とする子どもへの対応や授業づくりに関する内容等>

●教職への手厚いサポート – メンタリング・コーチングシステム

教職への意識付けや憧れが、早い段階から高まり卒業時には質の高い教員となるように、複数の指導教員が1年次から卒業まで、一人ひとりの学生の特性を踏まえた修学指導や生活指導、教員採用試験に向けての指導を行います。

【特別支援教育コース】

小学校教員としての実践的指導力を培う教育課程をベースに、知的障がいや肢体不自由などのある子どもたちと直接触れ合う実践体験から得られる生きた知識を重視しつつ、障がい児の教育・心理・生理に関する専門的な知識と指導法を学び、子どもたちの特別な教育的ニーズに応えられる特別支援学校の教員、及び小学校や中学校での特別支援教育の中心的役割を担える教員を養成します。

なお、取得できる特別支援学校教諭1種免許状の特別支援教育領域は、知的障害者、肢体不自由者、病弱者です。

取得できる教員免許

課程	コース	卒業要件単位に含まれる科目の修得のみで取得が可能な教員免許	卒業要件単位に含まれる科目のほか、当該教員免許取得に必要な科目の修得により得られる教員免許	
学校教育教員養成課程	小学校教育コース	・小学校教諭1種	いずれか1つを選択可	・幼稚園教諭1種
				・中学校教諭1種(国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 技術, 家庭, 英語) ・高等学校教諭1種(国語, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 家庭, 英語) ※中・高等学校の両方の取得が可能だが, 1つの教科に限る
	特別支援教育コース	・特別支援学校教諭1種 ・小学校教諭2種	いずれか1つを選択可	・小学校教諭1種
				・幼稚園教諭1種 ・中学校教諭1種(国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 技術, 家庭, 英語) ・高等学校教諭1種(国語, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 家庭, 英語) ※中・高等学校の両方の取得が可能だが, 1つの教科に限る

大分大学アドミッション・ポリシー

基本理念

人間と社会と自然に関する教育と研究を通じて、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成するとともに、地域の発展ひいては国際社会の平和と発展に貢献し、人類福祉の向上と文化の創造に寄与することです。

教育の目標

1. 学生の立場にたった教育体制のもとで、広い視野と深い教養を備え、豊かな人間性と高い倫理観を有する人材を育成します。
2. ゆるぎない基礎学力と高度の専門知識を修得し、創造性と応用力に富んだ人材を育成します。
3. 高い学習意欲をもち、たゆまぬ探究心と総合的な判断力を身につけ、広く世界で活躍できる人材を育成します。

求める学生像

意欲をもち、将来への可能性を秘めている人を求めています。

1. 幅広く、より深く学ぶための基礎的能力をもっている人
2. 旺盛な知的好奇心をもち、新しい課題に積極的に取り組む人
3. 自分のもつ資質を磨き、能力を伸ばしたい人
4. 夢や目的をもち、周囲と協力しつつその実現に向けて努力する人
5. 志をもって国際社会及び地域社会への貢献をめざす人

教育学部アドミッション・ポリシー

基本理念・目標

地域の学校教育の発展のため、教育に関する専門的な知識・技能を学校現場の中で創造的・総合的に活用し、新たな学びや地域の教育課題に適切に対応できる実践的指導力を備えた小学校教員、特別支援学校教員の養成を行うことです。

求める学生像

- ・小学校教員として、あるいは特別支援学校教員として子どもたちの教育や支援に取り組む意欲と情熱がある人
- ・学校教育に深い関心があり、大分県を中心とした地域社会への貢献ができる人
- ・物事を多面的に分析し、自ら課題を見つけ、他者と協働して課題解決ができる人
- ・子どもや他者とのコミュニケーションが積極的にでき、相互理解を深めようとする人

入学者選抜の基本方針

教育学部では、多様な観点から受験者の学力や資質をみるため、一般入試（前期日程・後期日程）及び推薦入試を実施し、「求める学生像」にそって学生を選考します。

（推薦入試のみ抜粋）

・推薦入試

総合的な学力をみるため、大学入試センター試験と面接を課しています。大学入試センター試験は5～6教科7～8科目とし、面接では提出書類と合わせて総合的に判断して選考します。

各選抜試験で重視する力や観点

入試区分	入試科目	確かな学力			求める学生像		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・多様性・協働性・コミュニケーション力	教育や支援に取り組む意欲と情熱	学校教育への深い関心	
一般入試	前期日程	大学入試センター試験	○	○			
		教科の試験	○	○		○	
		面接		○	○	○	○
		調査書	○		○	○	
	後期日程	大学入試センター試験	○	○			
		面接		○	○	○	○
調査書		○		○	○		
推薦入試	大学入試センター試験	○	○				
	面接		○	○	○	○	
	調査書	○		○	○		
	志望理由書		○		○	○	
	推薦書			○	○	○	

高等学校等の段階で習得すべき知識・能力

本学部の教育は、高等学校において学習する教科・科目を十分に理解し、習得していることを前提として行われます。このような点から、大学入試センター試験で課している教科・科目について、及び一般入試（前期日程）において各コースで課している教科・科目についてはその基礎を十分に理解し、習得するとともに、応用的な力を養うことが必要です。推薦入試や一般入試（後期日程）においては、これら教科・科目の試験は課していませんが、大学入学までにこれらの教科・科目を履修し、習得していることが望まれます。

国語：他者の考え・気持ちを理解するとともに、文章や資料等を的確に理解し、論理的に考え、話したり書いたりすることに習熟していることが必要です。
なお、習得しておくべき科目は国語総合の他、国語表現、現代文、古典に関する科目です。

地理歴史、公民：地理歴史科及び公民科における各科目の学習を通じて、基礎的な知識や技能を習得するとともに、地理、歴史及び現代社会に対する見方・考え方を身につけておくことが必要です。また、現代社会や世界には多様な価値観や考え方があることを理解するとともに、身近な地域や社会、世界で起こっている出来事や社会的事象に対して普段から興味や関心を持つことが望まれます。

数学：数学の基本的概念や原理・法則を理解するとともに、基礎的な計算技能を習得する必要があります。単に公式を暗記して問題に当てはめるのではなく、よりよい解法を求めて、既習の知識・技能を活用する姿を期待します。また、数学的な見方・考え方を身につけ、物事を数学的に判断・処理する能力を磨くことが必要です。
なお、習得しておくべき科目は数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学Bです。

理科：基礎的な概念について理解をし、科学的な自然観を持つことが必要です。さらに、知識の暗記だけでなく、科学的・論理的な思考を展開するために必要な見方や考え方を身につけていることも必要です。

外国語（英語）：外国語（英語）を聞くこと、話すこと、読むこと、書くことに関する基礎的な能力を身につけ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲にあふれていることが必要です。特に情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする力を養い、国際社会に生きる人間としての精神と外国語（英語）の力を持つことが望まれます。
なお、習得しておくべき科目はコミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱです。

経済学部アドミッション・ポリシー

教育理念・目標

本学部は、経済学、経営学を中心にしながら社会科学の諸分野について、基礎から応用・実践に至るまで幅広く学習することを通じて、経済社会の動向を的確に把握し、社会の中核を支える人材を養成することをめざしています。

こうした人たちが今日の高度化・複雑化する社会に柔軟に対応しながら、各方面で真価を発揮するためには、基礎的能力が不可欠です。こうした能力を身につけることは、社会や経済の変化に対する適応力を高めるとともに、創造性を発揮するうえでの基盤になると考えています。また、実社会で活躍するうえで求められる実践力を身につけるためにも基礎的能力が重要です。そこで、学生の基礎的能力を高めることを本学部の教育目的とします。

この目的を達成するために基礎学力を伸ばすことのできる多様な授業、カリキュラムを編成するとともに、少人数教育に基づいたきめ細かな指導によって、論理力、表現力、開かれたコミュニケーション能力や共生する力を育成します。同時に、国際化、情報化などに対応できる能力も育成します。

求める学生像

本学部は、経済社会の諸問題に関心をもつ人に対して、その基礎的能力を高めることを教育の目的としています。

したがって、本学部に入学する人は、経済社会への関心や基礎学力を有すると同時に、自分のもつ学力や能力を伸ばしたいという意欲をもつ学生であってほしいと考えています。とくに、いきいきとした好奇心をもち続けられる人、しっかりした自分をもち自己表現ができる人、そして、バイタリティーあふれる人を本学部は求めています。卒業後の進路として、次のような目標をもっている人が入学することを歓迎します。

- ・金融界で活躍することをめざす人（たとえば銀行、保険会社、証券会社の仕事などをめざす人）
- ・産業界で活躍することをめざす人（たとえばメーカー、商社、サービス業の仕事やベンチャービジネスの起業などをめざす人）
- ・公務に携わることをめざす人（たとえば公務員、国税専門官、裁判所職員や警察などの仕事をめざす人）
- ・会計や税務、法務に携わることをめざす人（たとえば公認会計士、税理士、中小企業診断士、社会保険労務士、司法書士などをめざす人）
- ・教育や研究に携わることをめざす人（たとえば高校教員や研究調査の仕事、また大学院進学などをめざす人）
- ・国際社会で活躍することをめざす人（たとえば国際公務員や海外ボランティア、また外国企業で働くことをめざす人）
- ・地域社会で活躍することをめざす人（たとえば県庁・市町村役場やマスコミ、病院、福祉施設などで働くことをめざす人）

《各学科の特色》

本学部は、次の三つの学科によって構成され、それぞれ特色ある授業を提供しています。

とりわけ地域経済や地域社会に関する豊富な授業は他大学にはみられない充実したものです。学生は入学時に学科を決めず、基礎を幅広く学んだのち各自の希望に応じて所属学科を決めますが、学生の多様な関心やニーズに対応し、多面的な学習ができるように所属学科にかかわらず豊富なメニューのなかから自由に選択できるようにしています。

〈経済学科〉

経済学科では、家計、企業、政府などの経済主体の行動から構成される経済現象の全体像について学びます。分析にあたっては、さまざまな経済現象の関連性に着目して、それらの因果関係を明らかにすることを重視します。

〈経営システム学科〉

経営システム学科では、現代企業のかかえる諸問題を正確に分析し、解明するための方法を学びます。基本的には経営学・会計学・商学を中心にして、理論と実践の統合をはかっています。

〈地域システム学科〉

地域システム学科では、地域レベルで生じているさまざまな地域問題を社会学・地理学・社会福祉学・法学・コミュニケーション学などに立脚しながら総合的・学際的にとらえ、その具体的解決策を模索することを目的としています。

入学者選抜の基本方針

経済学部では、一般入試（前期日程、後期日程）のほか、推薦入試（普通推薦、商業推薦）、アドミッション・オフィス入試（AO入試）、社会人入試などを実施し、複数の入学者選抜方式によって多様な人材を受け入れることをめざしています。

・一般入試（前期日程）

高等学校等において基礎的な学力を修得した学生を選抜するため、大学入試センター試験は5～6教科7～8科目とし、個別学力検査では数学と英語から1教科を選択します。

・一般入試（後期日程）

高等学校等において基礎的な学力を修得した学生を選抜するため、大学入試センター試験は4～5教科5科目とし、個別学力検査では小論文を課します。小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力をみます。

・推薦入試（普通推薦、商業推薦）

大学入試センター試験と個別学力検査を免除し、小論文、面接、提出書類を総合して選考します。小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力をみます。面接はグループによるディスカッション方式で行い、積極性や理解力、自己表現能力をみます。

・アドミッション・オフィス入試（AO入試）

英語または簿記の能力が高く、そのうえで経済学・経営学等を学び、能力を高めようとする意欲を持つ学生を選抜するため、大学入試センター試験と個別学力検査を免除し、小論文、面接、提出書類を総合して選考します。選抜方法は2段階選抜で、第1次選考は自己推薦書及び調査書による書類選考とします。第2次選考は小論文及び個人面接とします。小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力をみます。個人面接では、提出書類も参考にして、取得資格に関する能力、積極性、自己表現能力をみます。

・帰国子女入試

大学入試センター試験と個別学力検査を免除し、小論文、面接、提出書類を総合して選考します。小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力（日本語能力を含む）をみます。面接では、経済社会への知的好奇心や勉学意欲、自己表現能力をみます。

・社会人入試

大学入試センター試験と個別学力検査を免除し、小論文、面接、提出書類を総合して選考します。小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力をみます。面接では、経済社会への知的好奇心や勉学意欲、自己表現能力をみます。

・私費外国人留学生入試

日本留学試験ならびに本学で実施する学力検査（数学または英語から1教科選択）、小論文、面接、提出書類を総合して選考します。小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力（日本語能力を含む）をみます。面接では、経済社会への知的好奇心や勉学意欲、自己表現能力をみます。

・第3年次編入学

英語、小論文、提出書類を総合して選考します。小論文では、社会科学的素材に基づく出題を行い、理解力（あるいは大意把握力）、論理的思考力、表現力をみます。

高等学校等の段階で習得すべき知識・能力

経済学部の教育は、高等学校等において学習する教科・科目を十分に理解していることを前提として行われます。学生の基礎的能力を高めることが本学部の目標ですので、大学入学までに以下に掲げる能力等を身につけるようにしてください。

国語：資料や文章の読解力や大意把握力、自分の考えを説明するための論理的思考力と表現力が必要です。

地理歴史，公民：基礎的な知識と政治，経済，社会の動きに対する知的好奇心と探究心が必要です。

数学：基本的概念や原理・法則を理解することに加え，論理的な思考力と応用力（商業推薦の受験者にあっても，簿記に関する同様の思考力と応用力）が必要です。

理科：基礎的な知識と自然や科学に対する知的好奇心と探究心が必要です。

外国語（英語）：資料や文章の読解力と意思疎通のためのコミュニケーション能力，ならびに多様な言語文化に対する関心が必要です。

医学部アドミッション・ポリシー

基本理念

医と看護に関する最新の学術を教育・研究し、高度の医学及び看護学の知識並びに技術、そしてこれらを支える高い倫理観と豊かな教養・人間性を備えた医師或いは看護師・保健師、更には医学、看護学研究者を養成し、これら学問の進歩、国民の健康の維持増進、医療・保健を中心に地域や国際社会の福祉に寄与することが基本理念です。

教育の目標（看護学科のみ抜粋）

<看護学科>

人々が心身ともに健康な生活を営めるよう、適切な看護を行うことができる専門的知識と技術の習得を促し、看護学の発展と地域住民の保健・医療・福祉の向上、ひいては国際社会への貢献ができるよう、豊かな人間性を備えた人材を養成します。

求める学生像（看護学科のみ抜粋）

<看護学科>

- 1 看護を通して社会に貢献しようとする意志と、他者の喜び、苦しみを分かち合える温かい心を持っている人
- 2 日進月歩の医療及び激動する社会の変化に対応しうる知識と技術の習得のため、たゆまぬ努力と自己研鑽（生涯学習）を重ねる人
- 3 国の内外を問わず、社会に起こっている問題に関心を持ち、それに対して自分の考えが述べられるような教養を備えている人
- 4 何ごとにも積極性を持ち、多くの人と交流ができる社会性を備えている人

入学者選抜の基本方針（看護学科の推薦入試のみ抜粋）

<看護学科>

前述の「求める学生像」にふさわしい学生を選抜するために、看護学科では、一般入試と推薦入試を実施し、それぞれの選抜の趣旨に従って、多様な観点から受験者の学力や資質を評価しています。また、社会人を対象とした入試や、看護系短期大学・専修学校の卒業者等を対象とした3年次編入学を実施しています。

・推薦入試

推薦入試では、大学入試センター試験を免除し、小論文と面接を課しています。小論文では、理解力・統合力・思考力・表現力・独創性・論理性等を評価します。面接では、個人面接と集団面接を行い、看護学を学ぶための適性・コミュニケーション能力・学習意欲・自己理解力・リーダーシップ・協調性等を評価します。その際、高等学校長等の推薦書及び調査書を参考資料とします。

高等学校等の段階で習得すべき知識・能力

医学・医療を学ぶには、十分な基礎学力に加えて幅広い教養と他者への共感性、倫理性、社会的常識を備えていることが不可欠です。医学部の教育は、高等学校教育全科にわたって以下に掲げる基礎的な知識、技能、思考力、体力等をバランスよく身につけていることを前提として行なわれます。合格時に不足している項目については、入学までに確実に習得することが必要です。

(看護学科のみ抜粋)

<看護学科>

国語：他者の考え・気持ちを理解し，自分の考え・気持ちを伝える十分な読解力と文章力，論理的思考力，コミュニケーション能力を磨く必要があります。

地理歴史，公民：社会科学的な基礎知識と思考力を身につけている必要があります。

数学：数学Ⅰまたは数学Ⅱの基礎的知識，応用力と数理的思考力を身につけている必要があります。

理科：物理基礎・物理，化学基礎・化学，生物基礎・生物の知識と理学的思考力を身につけている必要があります。

外国語（英語）：国際的視野に立つ思考力，会話力を身につけている必要があります。

保健体育：健康と体力を維持・管理する基礎的知識と技能が必要です。

工学部アドミッション・ポリシー

基本理念

質の高い特色ある教育と研究を通じて、世界に通用する科学技術を創造し、もって地域に貢献するとともに、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成することです。

教育の目標

学生の立場にたった教育体制のもとで、自らの課題を探究する高い学習意欲と柔軟な思考力を有し、国際基準を満たすゆめがない基礎学力と高度の専門知識を備えるとともに、豊かな人間性と高い倫理観を有する人材を養成することです。

求める学生像

環境や社会に対する影響も予見しながら自然との共生や、真に人類に役立つ技術とは何かを自ら考え、先進的科学技術によって人類福祉に貢献する意欲をもち将来への可能性を秘めている人を求めています。

以上の観点と本学の求める学生像から、具体的には、次のような人を求めています。

- 1 工学の基礎をなす科目に対して基礎学力を備え、広範囲な事象に対して強い知的好奇心をもっている人
- 2 新しい課題を自ら見いだす着想力をもち、この課題に立ち向かう強い意志とねばり強さをもっている人
- 3 豊かな感性と表現力をもち、自立的に考えながらも他人と協力・共同して物事を実行していく姿勢をもっている人
- 4 技術者として、国際舞台でリーダーシップと行動力を発揮することに強い意志をもっている人
特に、各学科では、次のような人を求めています。

〈機械・エネルギーシステム工学科〉

本学科は、機械に関する基礎技術と利用技術、メカトロニクス、ロボティクスなどの制御の分野、新エネルギー、エネルギーの有効利用に関する技術開発および利用技術に重点を置く、機械工学・電気工学の総合的な教育と研究を行います。

以上のような教育理念に基づき、本学科では次のような人を求めています。

- 1 数学及び物理に関する基礎学力を備え、国語及び英語に関する基礎的な語学力も有し、自分の意見を論理的に説明できる人
- 2 自ら問題を見だし、計画的にその解決をめざすことができるリーダーシップと行動力をもっている人
- 3 ものづくりに興味があり、そのために必要な深い専門知識を身につけて創造的技術者や研究者となることをめざし、それによって人のために役立ちたいという強い意志をもっている人
- 4 地球規模での課題に問題意識をもち、それらの課題と技術との融合について関心をもっている人

〈電気電子工学科〉

本学科は、電気、電子、情報、通信等に代表される電気電子工学の広範な分野の中で、社会や環境に対する影響も予見しながら、人類の幸福・福祉に役立つ技術とは何かを積極的に考え、技術の発展や学問の進展に貢献することのできる人材の育成を目的にしています。

以上のような観点から、本学科では次のような人を求めています。

- 1 高等学校での基礎的な学習内容をよく理解して、電気電子工学並びに幅広い教養を学ぶための基礎学力をもっている人
- 2 現代社会の抱える課題や科学技術に関心があり、自ら学び理解しようという知的好奇心をもっている人
- 3 何事にも積極的にチャレンジする行動力をもっている人

〈知能情報システム工学科〉

本学科は、人の知を拡大する新世代知的IT（情報技術）革命の担い手となる国際的技術者・研究者を育てるという教育理念に基づき、次のような人を求めています。

- 1 情報科学の基礎から情報・知能工学の応用までの幅広い学習と研究に取り組むことができる基礎的な能力と旺盛な知的好奇心をもっている人
- 2 高度情報化社会において、新たな課題を自ら見つけだし、解決することを通じて、地域社会や世界に貢献したいという高い志をもっている人
- 3 豊かな感性と表現力・コミュニケーション能力をもち、自ら考えて行動し、夢の実現に向かってチャレンジすることができる人

〈応用化学科〉

私達が将来にわたって地球上で共存し幸福に暮らしていくためには、エネルギー・情報・環境に関して生じてくる複雑な問題を科学的に解決していかなければなりません。化学は物質の存在形態と変化の本質を明らかにしようとする学問ですから、種々の課題の解決における化学の知識と技術の重要性は、新しく形を変えつつますます大きくなってきています。

本学科は、私達の生産活動、毎日の生活や自然現象を化学的な立場から自ら進んで考え、化学技術によって人類福祉に貢献することのできる技術者、研究者の養成を目標としています。

応用化学科の教職員は、一生懸命自分を高めようと頑張る学生諸君を力いっぱい支援します。

以上の観点から、本学科では次のような高校生や社会人を求めています。

- 1 自然界や人間社会、産業社会のさまざまな現象について常に科学的・化学的観点から興味をもつことができる人
- 2 工学を学ぶために必要な、数学、化学とともに物理あるいは生物について基礎学力をもっている人
- 3 英語、国語の基礎的語学能力をもとに、与えられた課題について論理的かつ自由な発想で考え、意見を発表することができる人
- 4 学習の目標を達成する強い意志をもっている人

〈福祉環境工学科〉

本学科は、すべての人が幸福を感じられる高度福祉社会を、工学的側面から実現するための研究開発と人材養成を行うことを理念にしており、このような目標に向かって努力できる人を求めています。

・建築コース

建築は生活の器として人間に密接な存在であり、都市や地域の環境を構成する基本的な要素です。そのため、建築には自然と共生しながら、人間生活の安全性・快適性を追求し、その質を向上させながら、長年にわたって持続させていくことが要求されます。したがって、自然科学や工学の分野だけでなく、人文、社会科学から芸術にわたる幅広い知識が必要となります。

本コースは、高度化・多様化・国際化している社会のニーズに対応できる豊かな発想力、豊かな人間性及び幅広い見識を兼ね備えた建築家、建築技術者、研究者の育成を目標としています。そのため本コースは次のような意欲と情熱をもつ人を求めています。

- 1 工学、人文、社会科学並びに芸術の分野に関心があり、幅広い専門知識を身につけ社会に貢献できるエキスパートをめざしている人
- 2 あらゆる立場の人とコミュニケーションできる能力と見識を有する技術者になりたいという旺盛な意欲をもっている人
- 3 自ら課題を見つけたし、それを解決できる行動力と柔軟な思考力を獲得するため努力をする人

・メカトロニクスコース

機械部品と電気部品とその制御装置が複合されたメカトロニクス装置 (= Mechanics + Electronics, ロボットはその一例) は、多くの人の負担を軽減すると共に、今まで人にしかできなかった作業も可能にしつつあります。

本コースは、このメカトロニクス装置に関する技術を通じて社会のニーズに貢献するメカトロニクス技術者・研究者の育成を目標とし、次のような人材を求めています。

- 1 自分の力を人々の生活の質の向上に役立てようとする気持ち『福祉マインド』を持ち、これを育もうとする人
- 2 理工学、人文並びに社会科学の分野に関心があり、メカトロニクスに関する幅広い専門知識を身につけ社会に貢献できるエキスパートをめざしている人
- 3 国際的なコミュニケーション能力を有する技術者になりたいという強い意志をもっている人
- 4 自ら課題を見つけたし、それを解決できる行動力と柔軟な思考力をもっている人

入学者選抜の基本方針

本学部では、多様な観点から受験者の学力や資質をみるため、一般入試（前期日程・後期日程）のほか推薦入試、帰国子女入試、私費外国人留学生入試などを実施し、アドミッション・ポリシーにそって学生を選考します。

（推薦入試のみ抜粋）

・推薦入試

大学入試センター試験および個別学力検査を免除し、調査書、推薦書、基礎能力試験および面接により総合的に評価し、選抜します。基礎能力試験では、いくつかの設問を通じて、基礎能力を含む論理的思考力、課題解決能力を見ることで、受験者の工学分野への適性をはかります。また面接では、専門分野への関心・意欲・理解を見るとともに、積極性、自己表現力を見ます。また基礎学力に関する試問も含み、理解力・論理的思考力・表現力についても評価します。

高等学校等の段階で習得すべき知識・能力

工学部の教育においては、高等学校において学習する以下のような教科・科目の内容を理解していることが望まれます。高等学校の教育課程や入試区分等の違いもあるため、理解のレベルは個人によりそれぞれ異なると思います。不足していると思われる項目については、入学までに身につけるよう期待します。

国語：他者の考え・気持ちを理解するとともに、文章や資料等を的確に理解し、論理的に考え、話したり書いたりすることに習熟していることが必要です。

地理歴史、公民：基礎的な知識を習得するとともに、地理、歴史及び現代社会に対する客観的な見方・考え方を身につけ、政治・経済・社会の動きに対して常に興味や関心を持つことが必要です。

数学：数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学Bについて、基礎的な計算技能を習得するとともに、基本的な定理を理解して活用できることが必要です。また、数学的な見方・考え方を身につけ、物事を数学的に判断・処理することに習熟していることが必要です。

理科：物理基礎・物理および化学基礎・化学について、基礎的な概念を理解するとともに、科学的・論理的な思考を展開するために必要な見方・考え方を身につけていることが必要です。

外国語（英語）：外国語（英語）を聞くこと、話すこと、読むこと、書くことに関する基礎的な能力を身につけ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲にあふれ、国際社会に生きる人間としての精神と外国語（英語）の力を持つことが必要です。

福祉健康科学部アドミッション・ポリシー

基本理念

福祉と医療、心理を融合した新しい教育研究を通じ、リハビリテーション学、社会福祉学、心理学の学問領域に立ち、それぞれの学問領域における高度な専門的知識と技能のみならず他領域における知識等を体系的に習得することを通じて、「地域包括ケア」のリーダーとして活躍できる人材養成を行うことにより、より成熟した福祉社会の実現に寄与することです。

教育の目標

資格取得をめざすのみではなく、「高度な専門性」と「社会人としての教養と態度」を備えた医療・福祉・心理の各分野における「実践専門職」として社会に貢献するとともに、包括的な支援を高度にマネジメントできるリーダーとして「地域包括ケア」の実現に寄与する人材を養成します。

求める学生像

本学部において、以下の人材を求めます。

- ・大学において、教養と専門的知識を習得するために必要な基礎学力とコミュニケーション能力を持つ人
 - ・福祉社会の実現に関心を持ち、自ら考え、実践・努力する人
 - ・様々な活動に主体的に取り組めるとともに、思いやりの心を持って行動できる人
 - ・地域社会や国際社会に貢献する意欲とリーダーシップを持つ人
 - ・知的好奇心が旺盛で、新しい課題に積極的に取り組む人
- 〈理学療法コース〉
- ・リハビリテーションの専門知識や技能を生かして社会に貢献したいという意志を持つ人
- 〈社会福祉実践コース〉
- ・福祉の専門職として、地域に貢献し、社会に役立ちたいという意志を持つ人
- 〈心理学コース〉
- ・心理学の知識や技能を生かして社会で活躍し、貢献したいという意志を持つ人

入学者選抜の基本方針

本学部では、求める学生像のみならず、高等学校及び大学において育成すべき「生きる力」「確かな学力」の本質を踏まえつつ、アドミッション・ポリシーに基づき、受験者の多様な能力を多元的に評価する個別選抜を確立するために、一般入試（前期日程・後期日程）及び推薦入試（理学療法コース及び心理学コースは実施しない）を実施し、高等学校等で培われた学びの意欲や活動を多面的・総合的に評価し、選考します。

（推薦入試のみ抜粋）

- ・推薦入試

「社会福祉実践コース」のみ推薦入試を行います。特に、大学入試センター試験を課さない推薦入試においては、アドミッション・ポリシーに基づき多様な能力を多元的に評価する選抜として、小論文では総合問題等を導入し、論理的思考力、表現力を測り、面接ではコミュニケーション力やリーダーシップを測ることにより丁寧な選抜を行います。

高等学校等の段階で習得すべき知識・能力

本学部の教育は、高等学校において学習する教科・科目を十分に理解し、習得していることを前提として行われます。個別学力検査及び推薦入試においては、これら教科・科目の試験は課していませんが、大学入学までにこれらの教科・科目を履修し、習得していることが望まれます。

- 国語**：他者の考え・気持ちを理解するとともに、文章や資料等を的確に理解し、論理的に考え、話したり書いたりすることに習熟していることが必要です。
なお、習得しておくべき科目は国語総合、国語表現、現代文、古典です。
- 地理歴史、公民**：地理歴史科及び公民科における各科目の学習を通じて、基礎的な知識や技能を習得するとともに、地理、歴史及び現代社会に対する見方・考え方を身につけておくことが必要です。また、現代社会や世界には多様な価値観や考え方があることを理解するとともに、身近な地域や社会、世界で起こっている出来事や社会的事象に対して普段から興味や関心を持つことが望まれます。
- 数学**：数学の基本的概念や原理・法則を理解するとともに、基礎的な計算技能を習得する必要があります。単に公式を暗記して問題に当てはめるのではなく、よりよい解法を求めて、既習の知識・技能を活用する姿を期待します。また、数学的な見方・考え方を身につけ、物事を数学的に判断・処理する能力を磨くことが必要です。
なお、習得しておくべき科目は数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学Bです。
- 理科**：基礎的な概念について理解をし、科学的な自然観を持つことが必要です。さらに、知識の暗記だけでなく、科学的・論理的な思考を展開するために必要な見方や考え方を身につけていることも必要です。
- 外国語（英語）**：外国語（英語）を聞くこと、話すこと、読むこと、書くことに関する基礎的な能力を身につけ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲にあふれていることが必要です。特に情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする力を養い、国際社会に生きる人間としての精神と外国語（英語）の力を持つことが望まれます。
なお、習得しておくべき科目はコミュニケーション英語Ⅰ、コミュニケーション英語Ⅱ、コミュニケーション英語Ⅲ、英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱです。

1. 推薦入試募集人員

学部	課程・学科・コース等		推薦区分	募集人員	推 薦 人 員
教育学部	学校教育教員養成課程	小学校教育コース		25	各高等学校等から5名以内
		特別支援教育コース		5	制限なし
	小 計			30	
経済学部	経済学科 経営システム学科 地域システム学科 【注1】		普通推薦	50	各高等学校等から4名以内
			商業推薦	25	制限なし
	計			75	
医学部	看護学科			15	各高等学校等から3名以内
	計			15	
工学部	機械・エネルギーシステム工学科		A推薦	9	各高等学校等からA推薦, B推薦合わせて4名以内
			B推薦【注3】	3	
	電気電子工学科		A推薦	11	各高等学校等からA推薦, B推薦合わせて3名以内
			B推薦【注3】	3	
	知能情報システム工学科		A推薦	10	各高等学校等からA推薦, B推薦合わせて3名以内
			B推薦【注3】	5	
	応用化学科		A推薦	10	制限なし
			B推薦【注3】	2	
	福祉環境工学科 【注2】	建築コース	B推薦【注3】	5	制限なし
		メカトロニクスコース	A推薦	6	制限なし
B推薦【注3】			2		
計			66		
福祉健康科学部	福祉健康科学科	社会福祉実践コース	普通推薦	5	各高等学校等から2名以内
			福祉推薦	1	各高等学校等から2名以内
	計			6	
合 計				192	

【注1】経済学部は、入学後に所属学科を決定します。

【注2】工学部福祉環境工学科には建築コース（入学定員50名）とメカトロニクスコース（入学定員30名）の2コースがあります。推薦入試の合格者は、入学後は志願時に希望したコースに所属して学びます。

【注3】工学部のB推薦において、出身学校の課程・学科、履修科目と希望コースが整合しているかどうか疑問の場合は、事前に入試課へ申し出てください。

2. 推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない）

＜経済学部・医学部（看護学科）・工学部・福祉健康科学部＞

① 推薦要件

次の各号に該当する者で、高等学校長，中等教育学校長，特別支援学校長及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等の長が責任をもって推薦できる者

1 高等学校，中等教育学校，特別支援学校の高等部及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等（以下「高等学校等」という。）を平成28年3月卒業見込みの者（外国の高等学校に留学のため，平成27年4月1日以降学年の途中において卒業と認められた者を含む。）

2 合格した場合は，入学することを確約できる者

3 次表の各学部・学科・コース等の掲げる推薦要件を満たす者

学部	学科・コース等	推薦区分	推薦要件
経済学部	経済学科 経営システム学科 地域システム学科	普通推薦	(1) 高等学校等の普通科又はその他の学科で本学が普通科に準ずると認める学科・課程（いわゆる職業教育を主とする学科以外の学科）を卒業見込みの者 (2) 調査書の学習成績概評が A段階 に属する者 (3) 校内外を問わず自主的勉学ないし活動において特に優れた成果をあげている者 (4) 人物的に優れ，本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者
		商業推薦	(1) 高等学校等の商業に関する学科・課程又はその他の学科を卒業見込みの者。ただし， 商業に関する学科・課程以外 を卒業見込みの者については， 商業に関する教科・科目を20単位以上 修得した（見込みを含む。）者 (2) 高等学校等の最終年次における成績が 上位10%以内 の者 (3) 人物的に優れ，本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者
医学部	看護学科		(1) 高等学校等における学習成績が優秀で，調査書の学習成績概評が A段階 に属する者 ※ ㊤ に該当する者については，調査書に ㊤ と表示してください。 (2) 看護職者あるいは看護学研究者として活躍しようとする，はっきりした目的意識を持ち，他者への思いやりと共感，生涯学習への意志と体力を持った者

学部	学科・コース等	推薦区分	推薦要件
工	機械・エネルギーシステム工学科	A推薦	(1) 本学科への専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等の学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評が A段階 に属する者 (3) 高等学校等において「物理」を履修している者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者
		B推薦	(1) 本学科への専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等の 機械又は電気 に関する学科・課程又は 総合学科 を卒業見込みの者。ただし、 総合学科 を卒業見込みの者については、 工業に関する教科・科目を20単位以上 修得した（見込みを含む。）者 (3) 高等学校等の学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評が A段階 に属する者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者
学	電気電子工学科	A推薦	(1) 本学科への専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等の学習成績が優秀な者、又は特に物理が優秀な者 (3) 高等学校等において「物理」を履修している者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者
		B推薦	(1) 本学科への専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等の 電気又は電子 に関する学科・課程又は 総合学科 を卒業見込みの者。ただし、 総合学科 を卒業見込みの者については、 工業に関する教科・科目を20単位以上 修得した（見込みを含む。）者 (3) 高等学校等の学習成績が優秀な者、又は特に物理が優秀な者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者
部	智能情報システム工学科	A推薦	(1) 本学科への専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等の学習成績が優秀な者 (3) 高等学校等において「物理」又は「化学」を履修している者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者
		B推薦	(1) 本学科への専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等の 情報又は計算機 に関する 工業系 の学科・課程又は 総合学科 を卒業見込みの者。ただし、 総合学科 を卒業見込みの者については、 情報又は計算機に関する科目を8単位以上を含む工業に関する教科・科目を20単位以上 修得した（見込みを含む。）者 (3) 高等学校等の学習成績が優秀な者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者

学部	学科・コース等		推薦区分	推薦要件
工	応用化学科		A推薦	(1) 本学科への専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等の学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評が A段階 に属する者 (3) 高等学校等において「物理」又は「化学」を履修している者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者
			B推薦	(1) 本学科への専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等の 化学 に関する学科・課程又は 総合学科 を卒業見込みの者。ただし、 総合学科 を卒業見込みの者については、 工業に関する教科・科目を20単位以上 修得した（見込みを含む。）者 (3) 高等学校等の学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評が A段階 に属する者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者
学 部	福祉環境工学科	建築コース	B推薦	(1) 本学科・コースへの専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等の 建築系又は土木系 の学科・課程又は 総合学科 を卒業見込みの者。ただし、 総合学科 を卒業見込みの者については、 建築又は土木に関する教科・科目を20単位以上 修得した（見込みを含む。）者 (3) 高等学校等の学習成績が優秀で、調査書の学習成績概評が A段階 に属する者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者
		メカトロニクスコース	A推薦	(1) 本学科・コースへの専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等の学習成績が優秀な者 (3) 高等学校等において「物理」又は「化学」を履修している者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者
	福祉環境工学科	メカトロニクスコース	B推薦	(1) 本学科・コースへの専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等の 機械系、電気系 の学科・課程又は 総合学科 を卒業見込みの者。ただし、 総合学科 を卒業見込みの者については、 機械、電気に関する教科・科目を20単位以上 修得した（見込みを含む。）者 (3) 高等学校等の学習成績が優秀な者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者
			A推薦	(1) 本学科・コースへの専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等の学習成績が優秀な者 (3) 高等学校等において「物理」又は「化学」を履修している者 (4) 人物的に優れ、本学においても優秀な成績を修め得ると判断される者

学部	学 科 ・ コ ー ス 等		推薦区分	推 薦 要 件
福祉健康科学部	福祉健康科学科	社会福祉実践コース	普通推薦	(1) 本コースへの専攻の意志が強い者 (2) 調査書の学習成績概評が A段階 に属する者 (3) 人物的に優れ、かつ、福祉の専門職として、地域に貢献し、社会に役立ちたいという意志を有する者
			福祉推薦	(1) 本コースへの専攻の意志が強い者 (2) 高等学校等の 福祉に関する学科・課程又はその他の学科 を卒業見込みの者。ただし、次のいずれかに該当する者 ① 文部科学省が指定する「福祉系高等学校等」「特例高等学校等」において「 教科福祉 」に含まれる科目を 12単位以上 修得した（見込みを含む。）者 ② ①以外の高等学校等で福祉関係のコースや課程、系列において、 福祉に関する科目を12単位以上 修得した（見込みを含む。）者 (3) 調査書の学習成績概評が A段階 に属する者 (4) 人物的に優れ、かつ、福祉の専門職として、地域に貢献し、社会に役立ちたいという意志を有する者

② 入学者選抜方法等

大学入試センター試験を免除し、下記検査項目及び調査書、志望理由書、推薦書に基づいて総合判定します。

試験日：平成27年11月18日（水）

学部	学科・コース等		推薦区分	検査項目	検査時間	集合時刻及び集合場所	
経済学部	経済学科 経営システム学科 地域システム学科		普通推薦	小論文	9：30～11：00	午前9時に 経済学部棟玄関前に 集合	
				面接	13：00～16：00		
			商業推薦	面接	9：00～12：00		午前8時30分に 経済学部棟玄関前に 集合
				小論文	13：30～15：00		
医学部	看護学科			小論文	9：00～11：00	医学部（挟間キャンパス）に集合（集合時刻，集合場所の詳細については，受験票送付の際に周知）	
			面接	12：00～			
工学部	全学科		A 推薦 B 推薦	基礎能力試験	9：00～11：00	午前8時30分に 工学部管理棟玄関前に 集合	
				面接	11：30～		
福祉健康科学部	福祉健康科学科	社会福祉実践コース	普通推薦 福祉推薦	小論文	9：30～10：30	午前9時に 教養教育棟第一大講義室前に集合	
				面接	11：00～		

【注】全学部とも、昼食を検査場に持参してください。

※遅刻による検査室への入室限度時刻は、下記のとおりです。

〔経済学部〕

- ・検査開始時刻までです。

〔医学部〕

- ・小論文は、検査開始後20分です。
- ・面接は、受験者の1人目の面接が始まるまでです。

〔工学部〕

- ・基礎能力試験は、検査開始後20分です。
- ・面接は、受験者の1組目又は1人目の面接が始まるまでです。

〔福祉健康科学部〕

- ・小論文は、検査開始後20分です。
- ・面接は、受験者の1組目又は1人目の面接が始まるまでです。

③ 配点

学 部	学科・コース等		小論文	基礎能力試験	面 接		志望理由書	推薦書	調査書	合 計
					個人面接	集団面接				
経済学部	経済学科	経営システム学科 地域システム学科	60			60		30		150
医学部	看護学科		100		100					200
工学部	全 学 科			300	150			50		500
福祉健康科学部	福祉健康科学科	社会福祉実践コース	100		100					200

【注】必要な検査項目を受験しなかった場合は、0点でなく、不合格となります。

④面接，採点・評価等

【経済学部】

調査書，志望理由書，推薦書，小論文及び面接を総合的に評価し合格者を決定します。

(1) 面接

- ・面接は，課題についてのグループによるディスカッション方式で行います。

(2) 採点・評価

- ・小論文では，社会科学的素材に基づく出題を行い，理解力（あるいは大意把握力），論理的思考力，表現力をみます。
- ・面接では，積極性や理解力，自己表現能力をみます。
- ・調査書，志望理由書，推薦書等の提出書類では，高等学校等での活動や本学入学後の勉学意欲についてみます（志望理由書は，内容とその表現の両方を評価します）。

【医学部看護学科】

小論文及び面接（個人面接及び集団面接）により合格者を決定します。調査書，高等学校長等の推薦書及び自己推薦書は，参考資料として用います。

なお，同点者がいる場合は，面接の高得点者を高順位とします。

(採点・評価)

- ・小論文においては，課題式や資料式問題について解答を求め，理解力，統合力，思考力，表現力，独創性，論理性などを評価します。
- ・個人面接においては，看護学を学ぶための適性，コミュニケーション能力，学習意欲，自己理解力などを総合的に評価します。
- ・集団面接においては，コミュニケーション能力，リーダーシップ，協調性などを総合的に評価します。

【工学部】

調査書，推薦書，基礎能力試験(学科・コースによって，小論文的な記述式の試問・設問を含む。)及び面接（個人面接又は集団面接）を総合的に評価し合格者を決定します。

（採点・評価）

- ・基礎能力試験では，志望する学科・コースで必要となる（高等学校等で学習した）基礎的な知識を中心に，理解力・論理力・思考力・表現力を問う問題を出題し，論理的思考力や課題解決能力を評価します。
- ・面接では，志望する学科・コースやそれに関わる分野への関心・意欲・理解をみるとともに積極性，自己表現力をみます。また，基礎学力に関する試問も含み，理解力・論理的思考力・表現力についても評価します。

【福祉健康科学部】

小論文及び面接（個人面接）を総合的に評価し，合格者を決定します。志望理由書，推薦書，調査書は，参考資料として用います。

（採点・評価）

- ・小論文では，読解力，論理的思考力，表現力などを評価します。
- ・面接では，コミュニケーション力，積極性，リーダーシップなどを評価します。

3. 推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す）

<教育学部>

① 推薦要件

次の各号に該当する者で，高等学校長，中等教育学校長，特別支援学校長及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等の長が責任をもって推薦できる者

1 高等学校，中等教育学校，特別支援学校の高等部及び日本の高等学校と同等の課程を有するとして文部科学大臣が認定している在外教育施設等（以下「高等学校等」という。）を平成28年3月卒業見込みの者（外国の高等学校に留学のため，平成27年4月1日以降学年の途中において卒業と認められた者を含む。）

2 合格した場合は，入学することを確約できる者

3 次表の各コースの掲げる推薦要件を満たす者

学部	課程・コース		推 薦 要 件
教育学部	学校教育教員養成課程	小学校教育コース	人物的に優れ，かつ，小学校教育に対する意欲と情熱を有し，教員としての適性がある者
		特別支援教育コース	人物的に優れ，かつ，特別支援教育に対する意欲と情熱を有し，教員としての適性がある者

② 入学者選抜方法等

大学入試センター試験，面接及び調査書，志望理由書，推薦書に基づいて総合判定します。

面接試験日：平成27年11月18日（水）

学部	課程・コース	検査項目	検査時間	集合時刻及び集合場所
教育学部	小学校教育コース 特別支援教育コース	面接	9：30～17：00	午前9時に 教育福祉科学部管理棟玄関前に 集合

【注1】面接は，個人面接と集団面接を行います。集団面接は，集団討論の方式で実施します。ただし，志願者数によっては集団面接を行わないことがあります。その場合は，個人面接のみを行います。

【注2】面接の検査時間中に昼食をとることがあるので，昼食を検査場に持参してください。

【注3】遅刻による検査室への入室限度時刻は，受験者の1組目又は1人目の面接が始まるまでです。

【注4】面接の終了時刻は予定であり，変更することがあります。

大学入試センター試験日：平成28年1月16日（土），17日（日）

学部	課程・コース	大学入試センター試験指定教科・科目名	
		教科	科目名等
教育学部	小学校教育コース	国語	「国語」
		数学	「数学Ⅰ・数学A」 「数学Ⅱ・数学B」「簿記・会計」「情報関係基礎」「工業数理基礎」から1 ※4
		地理歴史 公民 理科	「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」 「地理A」「地理B」 } から1又は2 「現代社会」「倫理」「政治・経済」「倫理、政治・経済」 } ※2 ①「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」から2 ②「物理」「化学」「生物」「地学」から1 ③「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」から2と 「物理」「化学」「生物」「地学」から1 ※3 ④「物理」「化学」「生物」「地学」から2 } ※1
	特別支援教育コース	外国語	「英語」「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓国語」から1

- ※1 「地理歴史」及び「公民」から2科目と「理科」の①もしくは②，又は「地理歴史」及び「公民」から1科目と「理科」の③もしくは④
- ※2 「地理歴史」においては，同一名称のA・B出題科目，「公民」においては，同一名称を含む出題科目同士の選択はできません。
- ※3 「理科」において，同一名称を含む出題科目同士を選択していた場合は，「基礎を付した科目」2科目の合計点と「基礎を付さない科目」の得点のうち高得点の得点のみを使用します。「地理歴史」及び「公民」で1科目しか受験していない場合は，出願資格を満たさないこととなります。
- ※4 科目名等の「工業数理基礎」は「旧教育課程履修者に対する経過措置に係る科目」です。新教育課程履修者は選択解答できません。また，「工業数理基礎」を選択解答できる者は，高等学校若しくは中等教育学校において「工業数理基礎」を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の修了（見込み）者に限ります。

③ 配点

学部	課程・コース	大学入試センター試験	面接		志望理由書	推薦書	調査書	合計
			個人面接	集団面接				
教育学部	小学校教育コース	900	300	300				1500
	特別支援教育コース	900	300	300				1500

【注】面接は，個人面接と集団面接を行います，志願者数によっては集団面接を行わないことがあります。集団面接を行わない場合は，個人面接の配点を600点として大学入試センター試験と合わせて1500点で合否判定を行います。

④ 面接，採点・評価等

大学入試センター試験，面接及び調査書，志望理由書，推薦書を総合的に評価し，合格者を決定します。

(1) 面接

- ・複数の面接委員により，個人面接では当該コースへの関心，意欲，理解力及び自己表現力などをみます。集団面接では，出題されたテーマ・課題について，集団で討議を行い，そのテーマに対する理解力，自身の考え・意見の表現力ならびに他者の意見に対する理解力等コミュニケーションに対する能力などをみます。

(2) 調査書等

- ・調査書，志望理由書，推薦書は面接の参考にします。

⑤ 同点者の取り扱い

総得点が同点の場合は，大学入試センター試験の高得点者を高順位とします。

<以下「推薦入試Ⅰ」「推薦入試Ⅱ」共通事項です。>

4. 出願期間


平成27年11月2日（月）から11月6日（金）17時まで（必着）

出願は郵送のみとします。その際は必ず、本要項に添付されている封筒を用い、書留・速達で郵送してください。

【注】出願期間後に到着した出願書類は受理しませんので、郵便事情を十分考慮して早めに発送してください。ただし、11月6日（金）に限り持参を認めます。（受付時間は、9時から17時まで）

5. 出願に必要な書類等

(1) 出願書類等

書類等名	内容等	該当者
入学志願書・受験票	<p>本学所定の用紙に必要事項を記入し、下記のを貼り付けてください。</p> <p>1. 写真（縦4cm×横3cm, 上半身, 無帽, 正面向きで, 本人であると確認できるもの。）</p> <p>2. 入学検定料振替払込受付証明書等（大学提出用）</p>	全 員
電 算 処 理 原 票	本学所定の用紙に必要事項を記入してください。	全 員
調 査 書	文部科学省所定の様式で、出身学校長等が 1（前）学期末現在 で作成し、厳封したもの。	全 員
推 薦 書	本学所定の用紙に指導教諭及び出身学校長等が作成し、厳封したもの。 なお、様式裏面の記入要領を十分確認の上、作成してください。【注】	全 員
志 望 理 由 書	本学所定の用紙に 志願者が自筆 で作成したもの。	教育学部, 経済学部, 福祉健康科学部
自 己 推 薦 書	本学所定の用紙に 志願者が自筆 で作成したもの。	医学部(看護学科)
B 推 薦 に 関 す る 修 得 状 況 証 明 書	本学所定の用紙により作成し、出身学校長等が証明したもの。該当する「工業, 建築又は土木, 機械, 電気に関する教科・科目」における学習内容を示したシラバス（もしくは相当するもの）を添付してください。 （不明な場合には、出願前に入試課まで問い合わせをしてください。）	工学部 （B推薦：総合 学科卒業見込み の者のみ）
入学検定料振替払込 受 付 証 明 書 等 (17,000円)	<p>以下のいずれかの方法により本学指定口座に振込んでください。</p> <p>①金融機関（郵便局を含む）での振込 本学所定の振込用紙を用い、必ず窓口で振込手続を行ってください（ATM不可）。</p> <p>②コンビニエンスストアでの振込 本学ホームページ（http://www.oita-u.ac.jp/）から振込専用ホームページ（メニュー→入試情報→入学検定料のコンビニ収納）へアクセスするか、直接下記URLにアクセスし、指示に従い振込手続を行ってください。</p> <div style="text-align: right;">  </div> <p>【振込専用URL】https://www.oita-u.net/ 【携帯電話用URL】https://www.oita-u.net/mobile/</p> <p>※フィルタリングサービスをご利用の携帯電話からは、アクセスできないことがあります。</p> <p>振込後は、①の場合は「振替払込受付証明書（大学提出用）」を、②の場合は「収納証明書（コンビニエンスストアによっては領収書）」を受験票下の貼付欄にはがれないようのり付けしてください。 ※手数料は本人負担です。 出願書類を受理した後は、次の場合を除き、納入した入学検定料は返還できません。 （ア）入学検定料を振込んだが、出願しなかった場合（返還額：17,000円） （イ）入学検定料を誤って二重に振込んだ場合（返還額：17,000円） ※（ア）又は（イ）に該当する場合は、31ページ「（4）入学検定料の返還請求」を参照してください。</p>	全 員

住所シール	本学所定の用紙に、すべて記入してください。	全員
受験票返信用封筒	本学所定の封筒に志願者の郵便番号・住所・氏名を明記し、362円分の切手を貼ってください。	全員
大学入試センター試験成績請求票(国公立推薦入試用) (出願時に提出する必要はありませんが、 期日までに必ず提出してください。)	<p>大学入試センターから受験票の送付を受ける際に同封される「大学入試センター試験成績請求票(国公立推薦入試用)」を、本学所定の用紙に貼り付け、平成27年12月21日(月)までに、書留で郵送してください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p style="text-align: center;">推薦 平成28センター試験成績請求票 国公立推薦入試用</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p style="text-align: center;">200011-1001X-1 (コマバタロウ) 駒場 太郎</p> </div> </div>	教育学部

【注】 推薦書をパソコンで作成する場合は、次のURLの本学ホームページに掲載している様式(Word)を利用し、必ずA3判で提出してください。(http://www.oita-u.ac.jp/06nyushi/gakubu/gakubu-suisen.html)

(2) 出願に際しての注意事項

- (ア) 国公立大学(※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く。)の推薦入試は、大学入試センター試験を課すもの及び課さないものを含めて、1つの大学・学部にししか出願できません。
- (イ) 出願書類等に不備があるものは受付できません。出願書類提出前に本要項添付の出願用封筒裏面の推薦入試出願書類等一覧表の志願者確認欄により、出願書類を確認してください。
- (ウ) 出願後は、出願書類等の記載内容の変更はできません。
- (エ) 記載事項に虚偽の記入をした者は、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。
- (オ) 出願時に本学への出願資格として必要な高等学校等での修得科目等を修得予定の者(未修得者)は、入学時に修得の有無を確認し、未修得の場合は入学後でも入学許可を取り消すことがあります。
- (カ) 出願書類等は受付後は返却できません。

(3) 出願書類等の提出先

〒870-1192 大分市大字旦野原700番地

大分大学学生支援部入試課 TEL 097-554-7471

(4) 入学検定料の返還請求

入学検定料を振込んだが、出願しなかった場合又は入学検定料を誤って二重に振込んだ場合は、出願期間終了後ただちに、次の①～④を明記した「入学検定料返還請求願」(様式任意)を作成し、「振替払込受付証明書(大学提出用)」又は「収納証明書(コンビニエンスストアによっては領収書)」を添付し、封筒の表に「入学検定料返還請求願在中」と朱書きし、次の請求先に郵送してください。「入学検定料返還請求願」を受理後、返還に必要な書類を送付します。

・入学検定料返還請求願に記載する事項

①氏名(フリガナ)、②郵便番号及び住所、③連絡先電話番号、④返還請求理由

・請求期限:平成27年11月30日(月)

・請求先:〒870-1192 大分市大字旦野原700番地

大分大学学生支援部入試課 TEL 097-554-7471

6. 個人情報の取扱い

- (1) 国公立大学の分離分割方式による合格及び追加合格決定業務を円滑に行うため、氏名、大学入試センター試験の受験番号、合否及び入学手続等に関する個人情報が、独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に送達されます。
- (2) 志願者から提出された出願書類等に記載されている個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「国立大学法人大分大学個人情報保護ポリシー」に基づき、入学者選抜に係る業務・統計処理などの付随する業務以外には利用しません。ただし、入学料・授業料免除(猶予)及び奨学金を申請した場合には、その選考資料として利用します。

7. 障がいのある者等の事前相談

障がいを有する等、受験上及び修学上の配慮を必要とする可能性がある入学志願者については、次の要領で申し出てください。

(1) 申出期限

平成27年10月21日(水)17時までに申し出てください。

ただし、期限後に不慮の事故等により障がいのある状態になったときには、その時点ですみやかに申し出てください。

(2) 申出方法

本要項に添付している「平成28年度大分大学入学者選抜試験受験上の配慮申請書（診断書等必要書類添付）」を提出してください。必要な場合は、本学において、志願者本人またはその立場を代弁しうる関係者等との面談を行います。

(3) 申出先

〒870-1192 大分市大字旦野原700番地
大分大学学生支援部入試課 TEL 097-554-7471

8. 東日本大震災により被災した者、または東日本大震災や福島原子力発電所事故により転学等をした者の事前相談

東日本大震災により被災した入学志願者、または東日本大震災や福島原子力発電所事故により転学等をした入学志願者で、本学の受験に際し特別な措置が必要な者及び修学上特別な配慮が必要な者は、次の要領で申し出てください。

(1) 申出期限

平成27年10月21日（水）17時までに申し出てください。

(2) 申出方法

志願者本人またはその立場を代弁しうる関係者等から、直接または電話により申し出てください。

(3) 申出先

〒870-1192 大分市大字旦野原700番地
大分大学学生支援部入試課 TEL 097-554-7471

なお、東日本大震災に関する入試情報については、本学ホームページ (<http://www.oita-u.ac.jp/>) に詳細を掲載しています。

9. 受験票

受験票は、出願期間終了後、本人宛に送付します。

10. 受験に際しての注意事項

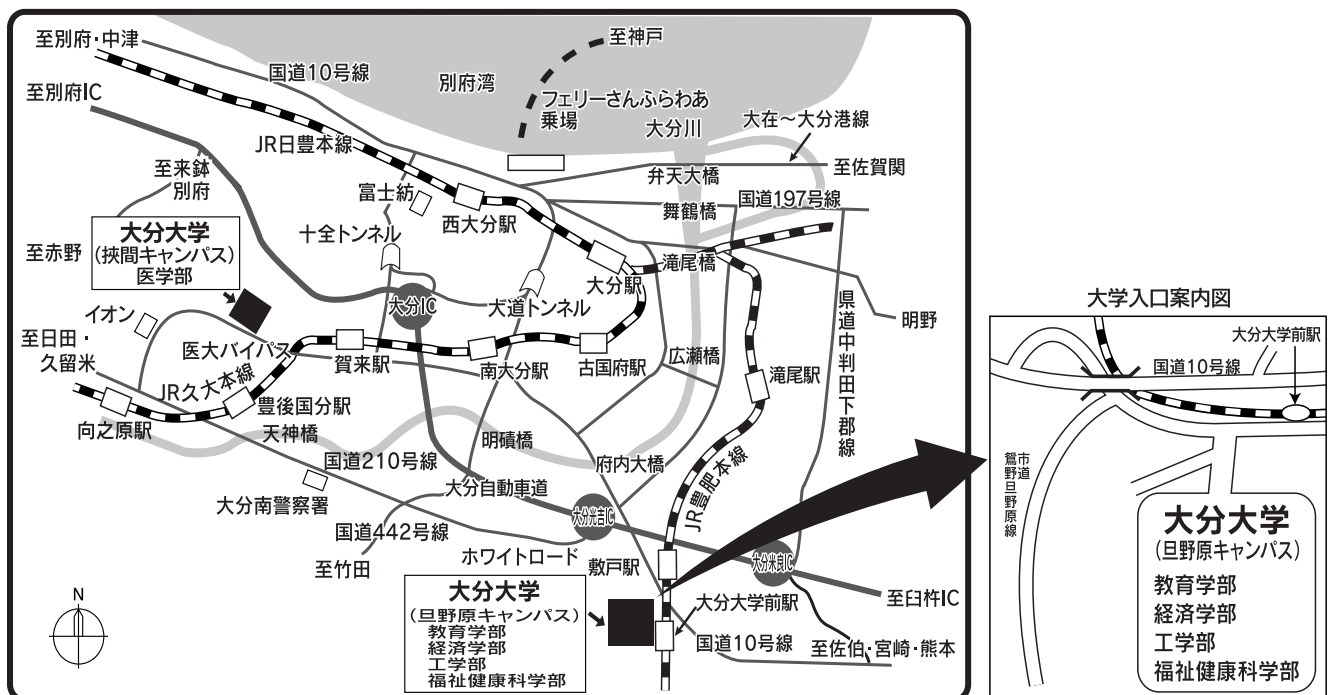
- (1) 24及び27ページに掲載している集合時刻までに集合場所に集合し、入室後は監督者の指示に従ってください。
- (2) 検査中は、本学受験票を必ず机の上に置いてください。
- (3) 受験票、黒鉛筆、シャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り、時計機能のみの時計、眼鏡、ハンカチ、ティッシュペーパー（袋から取り出したもの）、目薬以外のものを机の上に置かないでください。なお、他の持ち物については、監督者の指示に従ってください。
- (4) 遠方からの受験者は、風雪害等による交通機関の遅れ等を考慮し、日程に十分ゆとりをもって行動してください。
- (5) 検査当日は渋滞が予想されますので、時間に余裕をもって検査場に到着するようにしてください。
- (6) 携帯電話等の電子機器類の使用について
 - ・検査室内では、休憩時間中でも携帯電話等の音の出る機器の使用を一切禁止します。
 - ・検査時間中は、時計代わりに携帯電話等の時計機能を使用することもできません（机の上に置くことができません）。
 - ・検査室に入る前に、携帯電話等のアラームの解除と電源が切れていることを必ず確認してください。アラームの設定ができる時計についても、必ずアラームは解除して使用してください。
 - ・携帯電話等には、電源を切っていても、アラームを設定していると、設定した時刻に電源が入り、アラームが鳴る機種があります。機種にかかわらず、アラームの解除と電源が切れていることを確認し、身につけずに、かばん等にしまってください。
 - ・アラームの解除方法がわからない人や電源の切り方がわからない人、しまっておくかばん等がない人は、試験場本部や試験監督者又は大学の試験担当職員に受験番号と名前を告げ、携帯電話等を預けて指示に従ってください。

11. 検査場

学部名	検査場	所在地
教育学部 経済学部 工学部 福祉健康科学部	大分大学 ^{だんの はる} 旦野原キャンパス	大分市大字 ^{だんの はる} 旦野原700番地
医学部	大分大学 ^{はさま} 挾間キャンパス	由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地

- (1) 検査場の下見は、検査日前日の14時～16時の間に行ってください。ただし、建物内に入ることはできません。
- (2) 各学部検査場及び各検査室は掲示板で確認してください。
- (3) 検査当日、自動車等で来学する場合は、係員の指示に従ってください。
 なお、旦野原キャンパスには自動車での入構はできますが、駐車場に限りがありますので、できる限り公共交通機関等を利用してください。また、挾間キャンパスには十分な駐車場がありませんので、公共交通機関等を利用してください。
- (4) 挾間キャンパスでは、検査時間中に医学部附属病院救命救急センターのドクターヘリによる患者緊急搬送が行われる場合があります、その離着陸の際、一時的に大きな音が発生することがあります。この場合は生活騒音として扱い、原則、検査を続行することとしていますので、あらかじめご了承ください。

○大分大学位置図



だんのはる

○巨野原キャンパス

対象学部 教育学部・経済学部・工学部・福祉健康科学部

所在地 大分市大字巨野原700番地

T E L 097-554-7471 (学生支援部入試課)

交通アクセス

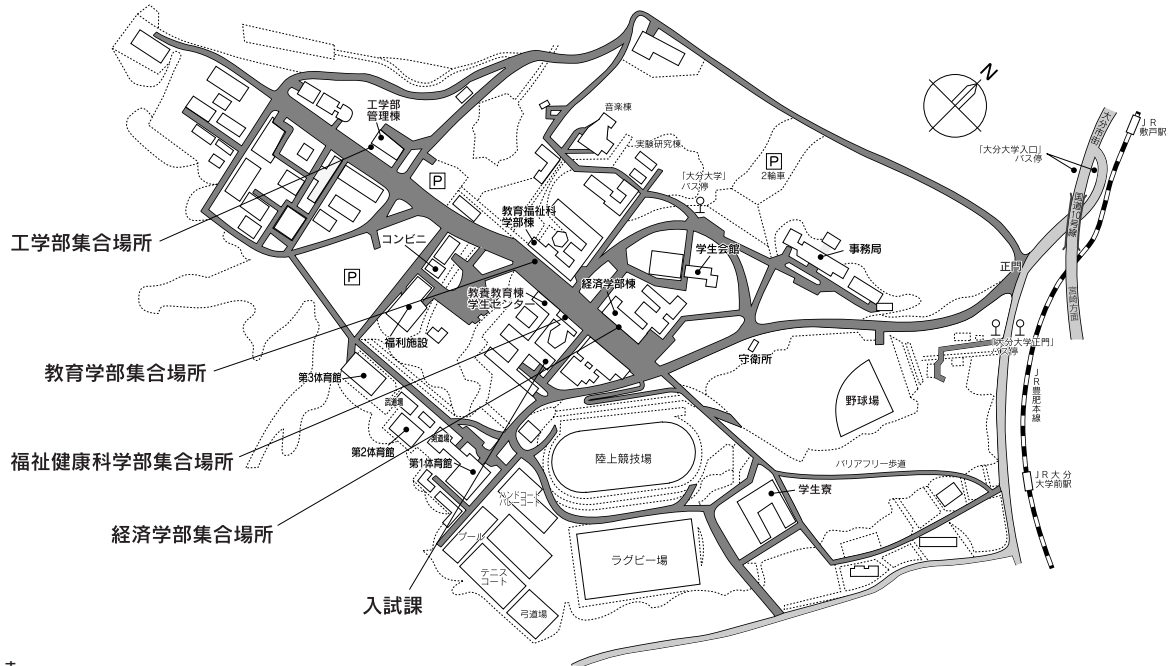
< J R利用 > ○ J R豊肥本線「大分大学前駅」下車 (大分駅から約12分) , 徒歩約10分

< バス利用 > 大分バス 中央通り [トキハ前1番のりば] 又は J R大分駅北口 [大分駅前3番または4番のりば] から

○ 「大南団地 (高江ニュータウン) 」行きを利用 (約40分)

「大分大学」又は「大分大学正門」下車, 徒歩約10分

○ 「戸次, 臼杵, 佐伯」行きを利用 (約40分) , 「大分大学入口」下車, 徒歩約10分 (詳細は時刻表で確認してください。)



はさま

○挾間キャンパス

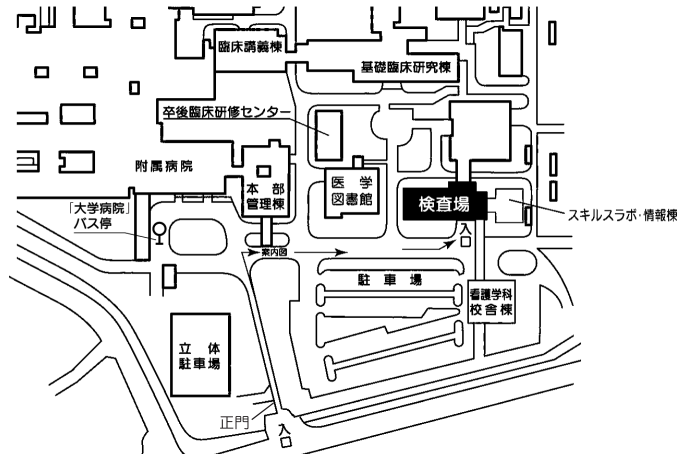
対象学部 医学部

所在地 由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地

T E L 097-586-5540 (医学・病院事務部学務課入学試験係)

交通アクセス

< バス利用 > 大分バス中央通り [トキハ前2番のりば] 又は J R大分駅北口 [大分駅前4番のりば] から, 「大学病院」行き又は「大学病院」経由を利用 (約40分) , 「大学病院」下車 (詳細は時刻表で確認してください。)



12. 不正行為の取扱い

- (1) 次のことをすると不正行為となります。不正行為を行った場合は、その場で受験の中止と退室を命じられ、それ以後の受験はできなくなります。また、受験したすべての検査項目の成績を無効とします。
- (ア) 入学志願書、受験票又は解答用紙へ故意に虚偽の記入（入学志願書に本人以外の写真を貼ることや解答用紙に本人以外の名前・受験番号を記入するなど。）をすること。
 - (イ) カンニング（カンニングペーパー・参考書・他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わることなど。）をすること。
 - (ウ) 他の受験者に答えを教えたりカンニングの手助けをすること。
 - (エ) 検査時間中に、問題冊子を検査室から持ち出すこと。
 - (オ) 解答用紙を検査室から持ち出すこと。
 - (カ) 「解答はじめ。」の指示の前に、問題冊子を開いたり解答を始めること。
 - (キ) 検査時間中に、携帯電話や電子辞書、ICレコーダー等の電子機器類を使用すること。
 - (ク) 検査時間中に、定規、コンパス、電卓等の補助具を使用すること。
 - (ケ) 「解答やめ。鉛筆を置いて問題冊子を閉じてください。」の指示に従わず、鉛筆や消しゴムを持っていたり解答を続けること。
- (2) 上記（1）以外にも、次のことをすると不正行為となることがあります。指示等に従わず、不正行為と認定された場合の取扱いは、上記（1）と同様です。
- (ア) 検査時間中に、携帯電話等の電子機器類や定規、コンパス、電卓等の補助具をかばん等にしまわず、身に付けていたり手に持っていること。
 - (イ) 検査時間中に携帯電話や時計等の音（着信・アラーム・振動音など。）を長時間鳴らすなど、検査の進行に影響を与えること。
 - (ウ) 検査に関することについて、自身や他の受験者を利するような虚偽の申し出をすること。
 - (エ) 検査場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
 - (オ) 検査場において監督者等の指示に従わないこと。
 - (カ) その他、検査の公平性を損なうおそれのある行為をすること。

13. 合格者発表

合格者は、次のとおり大分大学教養教育棟（旦野原キャンパス）前の中央掲示板（全学部合格者）及び医学部管理棟前（医学部看護学科合格者）に受験番号を掲示するとともに、合格者本人宛に「合格通知」を送付（同時刻に発送）します。また、大分大学ホームページ（<http://www.oita-u.ac.jp/>）においても公表します。

※出身高等学校長等に選考結果を通知します。

※これら以外の合否通知等については、本学は責任を負いません。

合格者発表日時	経済学部 医学部（看護学科） 工学部 福祉健康科学部	平成27年12月1日（火）10時
	教育学部	平成28年2月10日（水）10時

14. 入学手続等

合格者には、合格通知とともに入学手続に必要な案内を送付します。

なお、入学手続きは郵送のみとします。

また、教育学部の入学手続きには**大学入試センター試験受験票**も必要ですので、受験後も保管しておいてください。

(1) 入学手続期間

平成28年2月15日（月）～17日（水）17時まで（必着）（郵送のみ）

※推薦入試合格者は推薦要件にて「**入学することを確約できる者**」となっています。

ただし、特別の事情により本学に入学できなくなった場合、出身高等学校長等は至急「推薦入試入学辞退願」を大分大学長宛に提出してください。2月17日（水）までに許可された場合は入学を辞退することができます。

2月17日（水）17時までに入学手続きを完了しないときは、本学の推薦入試合格者としての権利を失います。

入学辞退が許可された場合を除き、他の国公立大学・学部（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く。）の入学許可は得られません。

※公立大学協会ホームページ（<http://www.kodaikyo.org/nyushi>）参照

(2) 入学料及び授業料

入学料 282,000円

授業料 535,800円（前期分267,900円 後期分267,900円）

【注1】入学料及び授業料については、免除・徴収猶予・奨学融資の制度があります。申請手続きは、入学料・授業料の納付前に行う必要がありますので、詳細については、学生・キャリア支援課奨学支援グループ（TEL 097-554-7386）までお問い合わせください。

【注2】入学料・授業料は改定されることがあります。

なお、在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定後の授業料が適用されます。

【注3】既納の入学料は返還できません。

【注4】入学料免除・徴収猶予を申請される方は、入学料を払い込まずに申請書類を提出してください。ただし、入学手続き完了後に入学を辞退した場合は、直ちに入学料を納付しなければなりません。

15. 一般入試への出願

推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さないもの）志願者が不合格となった場合は、一般入試（前期日程から1つ、後期日程から1つ、公立大学中期日程から1つの合計3つまで）の国公立大学・学部に出願することができます。

推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課すもの）志願者は不合格となった場合に備えて、一般入試（前期日程から1つ、後期日程から1つ、公立大学中期日程から1つの合計3つまで）の国公立大学・学部に出願することができます。

16. 入学試験個人成績の開示

本学においては、大分大学推薦入試個人成績を受験者本人に限って開示します。

開示を希望する場合は、次の要領で申し込んでください。

申込期間：平成28年5月2日（月）～平成28年5月31日（火）17時まで（必着）

※土日及び祝日は除きます。

申込者：受験者本人に限ります。（代理人は不可）

申込方法：次の書類等を持参又は郵送で学生支援部入試課に提出してください。

- ① 入学試験個人成績開示申請書（本学入試課に直接来学するか、大分大学ホームページから印刷して入手してください。）
- ② 推薦入試の受験票のコピー
- ③ 写真付きの身分証明書のコピー
- ④ 返信用封筒（長形3号の封筒に受験者本人の郵便番号・住所・氏名を明記の上、392円分の切手（簡易書留郵便料金分）を貼ってください。）

開示方法：受験者本人宛に簡易書留郵便で後日送付します。

開示内容：平成28年3月下旬に、大分大学ホームページでお知らせします。

17. 高大接続学習

【工学部，福祉健康科学部】

合格者には，入学までの間，本学から学習課題を課します。
必ず期限内に提出してください。

【経済学部】

合格者には，入学までの間，本学から学習課題を課します。

この学習課題は，高校段階の学習履歴を基に，大学入学後の学習をスムーズに開始できることを目的として，合格者が意欲的に取り組むことを課せられたプログラムです。なお，昨年度の学習課題は次のとおりです。

普通推薦合格者の課題

科目等	課 題
英語	①英検の受験
	②英検の成績表の提出
数学	①解答を書き込んだ問題集の提出（入学後に確認試験あり）
国語表現	①解答を書き込んだ「語彙・読解力検定」公式テキストの提出
	②「誤答・練習ノート」の提出
	③「語彙・読解力検定」受検
eラーニング	①インターネットを使用した入学前学習システム「e学び力」の課題

商業推薦合格者の課題

科目等	課 題
英語	①英検の受験
	②英検の成績表の提出
数学	①解答を書き込んだ問題集の提出（入学後に確認試験あり）
国語表現	①解答を書き込んだ「語彙・読解力検定」公式テキストの提出
	②「誤答・練習ノート」の提出
	③「語彙・読解力検定」受検
簿記	①問題集の解答用紙の提出
eラーニング	①インターネットを使用した入学前学習システム「e学び力」の課題

【教育学部，医学部看護学科】

本学からの学習課題は課しません。

18. その他

本学生募集要項に明記されている期日による試験実施が困難となるような不測の事態が発生した場合は，本学ホームページ（<http://www.oita-u.ac.jp/>）に対応の詳細をすみやかに掲載します。なお，不測の事態が発生した場合の問い合わせ先は，大分大学学生支援部入試課（TEL 097-554-7471）です。
また，特別な場合を除き追試験等は実施しません。

19. 受験の際の宿泊

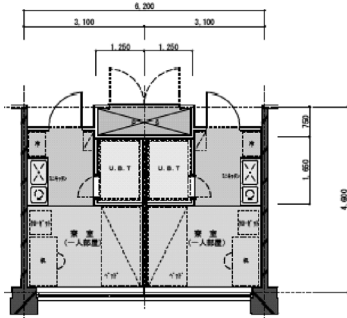
宿泊を希望する者は，この「推薦入試学生募集要項」に同封されている「宿泊のご案内」を参照してください。

20. 大分大学学生寮のご案内（予告）

試験種別（前期日程・後期日程等）によっては、入学試験前のお申込みとなりますので、ご注意ください。
予告内容は変更になる場合があります。正式には「学生寮入寮者募集要項」（平成27年12月上旬公表）でご確認ください。

学生の居住施設として、且野原キャンパス内に学生寮を設置しています。
医学部のある挾間キャンパスまでは、約10kmの距離ですが、バスや電車利用の場合、乗り継ぎのため90分程度を要します。
入寮者の選考は、経済的事由及び地理的事由（通学に要する時間が90分以上）を考慮して行います。

《学生寮の概要》



対象学生	収容人員	居室		建物構造
		部屋数	定員	
男子・女子・留学生	290名	290室	1名	鉄筋5階建

（身体等に障がいのある学生 男女各1室を含む。）

- 男女混住タイプ（男子・女子・留学生ゾーンによるエリア区分）
- 居室の形態 単身用個室タイプ（約12㎡）
ベッド（マットなし）、机・椅子、クローゼット、エアコン、
UTB（ユニットバス・トイレ）、ミニキッチン（IH）、
インターネット配線・TV配線付

（上図は2部屋を示します。）

《必要経費》

寄宿料	維持管理費（共益費）	インターネット使用料 （全員加入）	維持管理一時金 （退去時原形復旧費）
20,000円/月	2,000円/月	2,000円/月	40,000円/入居時

・光熱水費（電気・水道）は自己負担となります。（ガスは使用しません。）

《募集人員等》

- 募集人員：140名程度（大学院入学生を含む。）
- 入寮許可：2年間（平成28年4月1日～平成30年3月31日）

《選考区分等》

区分	選考Ⅰ	選考Ⅱ
選考対象	AO入試・編入学試験・社会人入試・推薦入試・ 特別入試・一般入試(前期日程)の合格者	一般入試（後期日程）の合格者
申込期間	平成28年1月25日（月）～2月3日（水）	
結果通知	平成28年3月10日（木）	平成28年3月24日（木）

- 試験種別によっては、入学試験前の申込となりますのでご注意ください。
- 大学院入学生については、選考Ⅱにより選考します。

《入寮者募集要項の入手方法》（募集要項公表：平成27年12月上旬）

冊子版をご希望の方

請求先 大分大学学生支援部学生・キャリア支援課 〒870-1192 大分市大字且野原700番地(TEL097-554-7443)
請求方法 大分大学学生支援部学生・キャリア支援課窓口でのお受取り又は郵便での請求ができます。
返信用封筒（角形2号、郵便番号、住所及び氏名を明記し、140円切手を貼付したもの）を同封の上、請求する封筒の表に「入寮者募集要項請求」と朱書してください。

デジタル版をご希望の方

大分大学公式ホームページからダウンロードしてください。（ホームページ → 学生生活 → 学生寮・アパート）

【お問い合わせ先】 大分大学学生支援部学生・キャリア支援課（学生寮担当）
TEL 097-554-7443 E-mail kagaikss@oita-u.ac.jp

入学試験に関する問い合わせ先

〒870 - 1192 おおいたし おおあざだんの はる 大分市大字巨野原700番地
大分大学学生支援部入試課
TEL 097 - 554 - 7471
FAX 097 - 554 - 7472
ホームページ <http://www.oita-u.ac.jp/>